

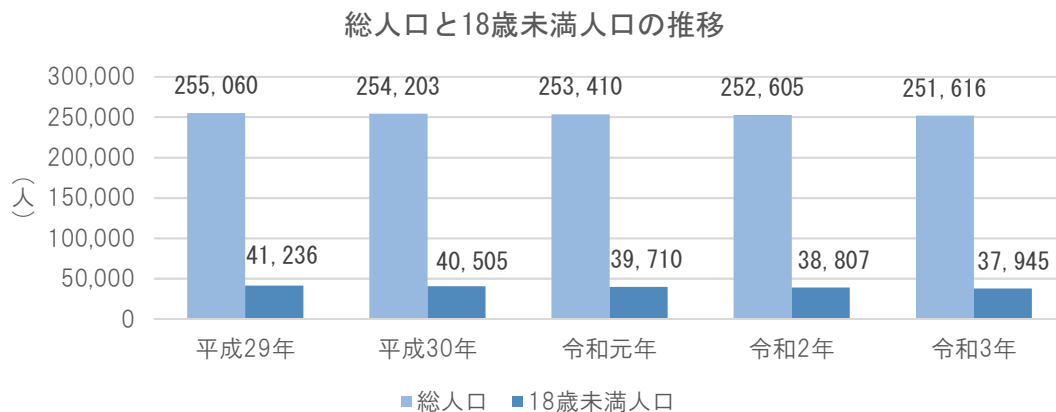
富士市の子ども達の現状と課題

(1) 富士市の子ども達の状況

① 総人口と18歳未満人口の推移

富士市の総人口は、減少傾向にあり、令和3年は251,616人となっています。

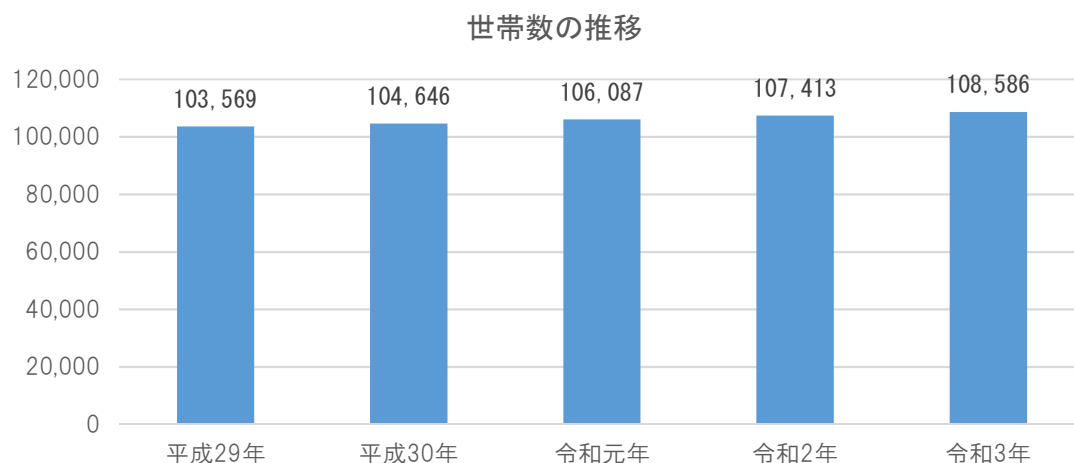
また、18歳未満人口は同様に減少傾向にあり、令和3年は37,945人で、総人口における割合は15.1%となっています。



出典：住民基本台帳 各年4月1日現在

② 世帯数の推移

富士市の世帯数は、増加傾向にあり、令和3年は108,586世帯となっています。



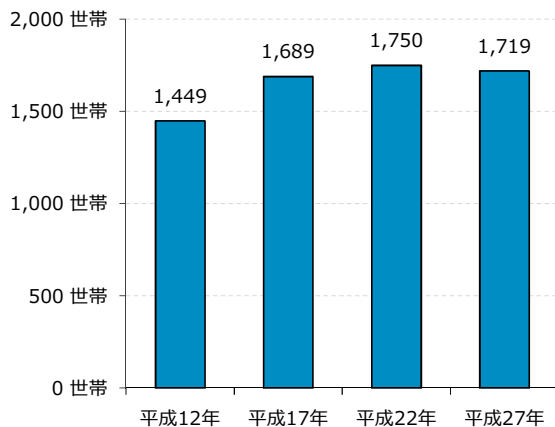
出典：住民基本台帳 各年4月1日現在

③ ひとり親世帯数の推移

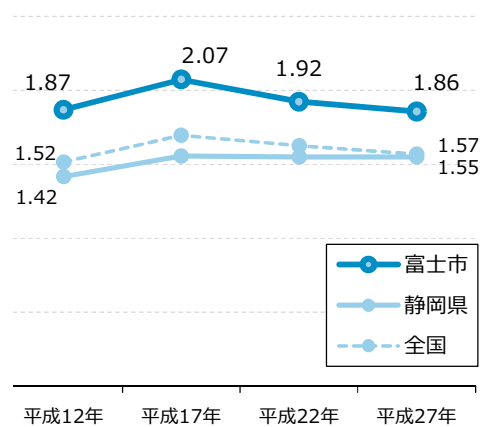
母子世帯と父子世帯の世帯数の合計をひとり親世帯数としてみると、富士市のひとり親世帯数は、平成12年から平成22年にかけて増加傾向にありますが、平成27年には減少して1,719世帯となっています。

また、富士市のひとり親世帯の割合は、静岡県・全国よりもわずかに高い割合で推移しており、平成27年は1.86%となっています。

富士市 ひとり親世帯数の推移



静岡県・全国のひとり親世帯割合の推移

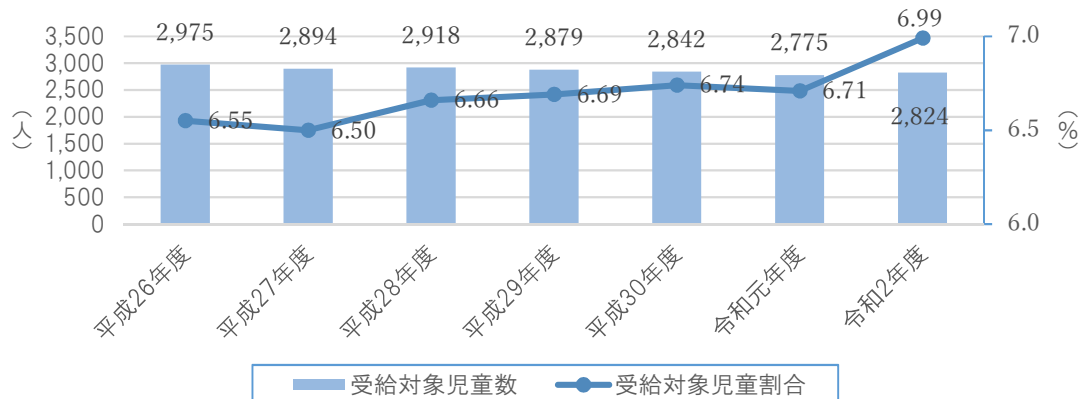


出典：統計センターしずおか 各年10月1日現在

④ 富士市の児童扶養手当支給対象児童数及び18歳以下の全児童における児童扶養手当受給対象児童割合の推移

富士市の児童扶養手当支給対象児童数は、平成26年度から平成30年度までの動向をみると、平成28年度ではわずかに増加していますが、以降はわずかに減少傾向にあり、平成30年度では2,842人となっています。一方、18歳以下の全児童における児童扶養手当受給対象児童の割合をみると、平成27年度から平成30年度にかけてわずかに増加傾向にあり、平成30年度では6.74%となっています。

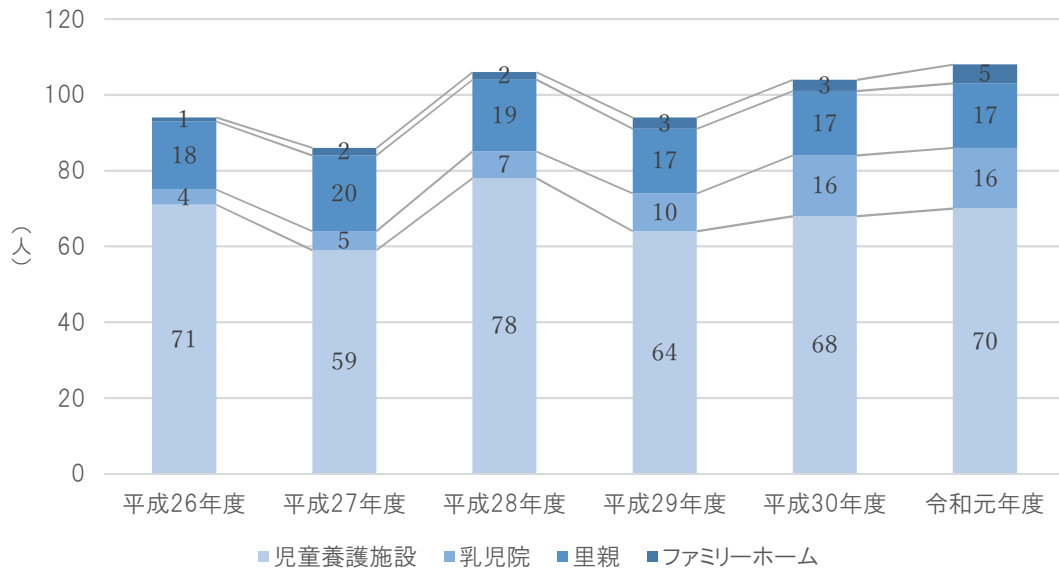
富士市 児童扶養手当受給対象児童数及び18歳以下の全児童における児童扶養手当受給対象児童割合の推移



出典：市データ（児童扶養手当受給対象児童：各年度3月末現在で、18歳以下の全児童数はその翌年度4月1日現在）

⑤ 富士市の社会的養護対象児童数の推移

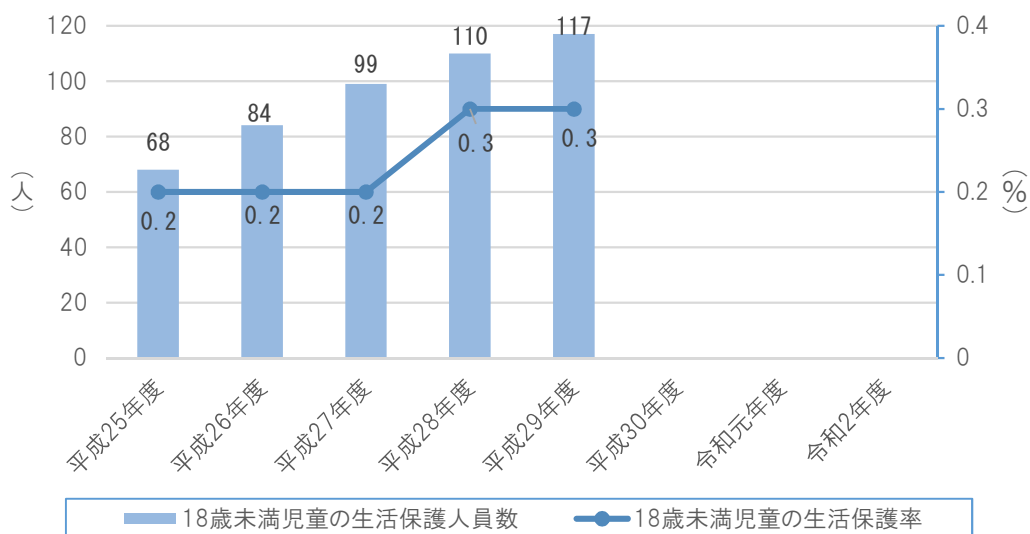
富士市の社会的養護の対象となる児童数は、平成26年度から80人以上で推移しており、年度によって総数は増減しています。平成29年度は、総数91人で、内訳は、里親が17人、乳児院が10人、児童養護施設が64人となっています。



出典：市データ

⑥ 富士市の18歳未満児童の生活保護人員数及び生活保護率の推移

富士市の18歳未満児童の生活保護人員数及び生活保護率は、平成25年度以降、増加傾向にあり、平成29年度は、生活保護人員数117人、生活保護率0.3%となっています。



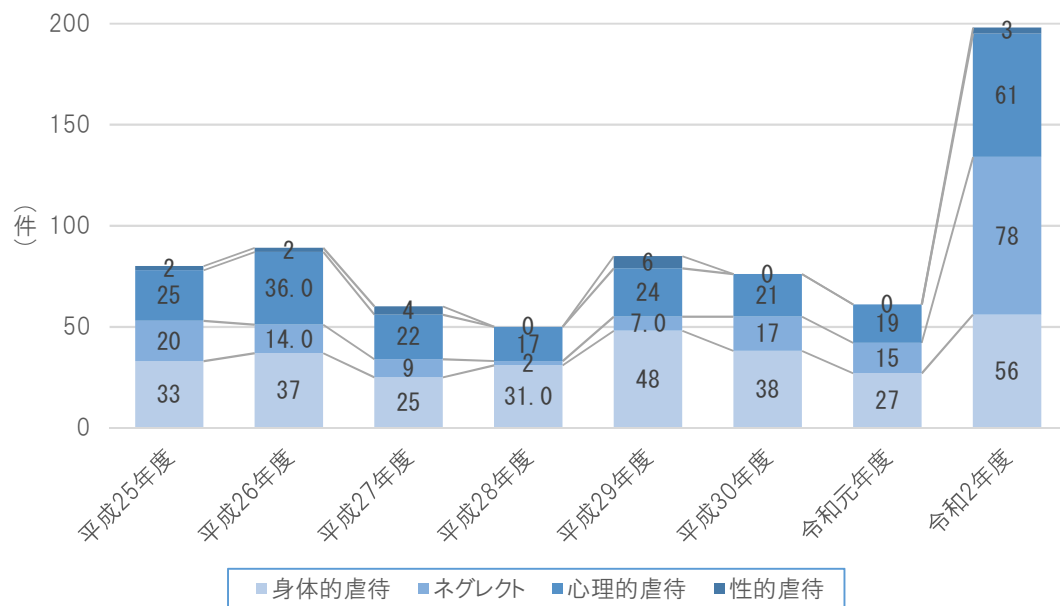
出典：市データ

⑦ 富士市の児童虐待に関する新規相談件数の推移

富士市の児童虐待に関する相談件数を相談内容別にみると、令和2年度では性的虐待が3件、心理的虐待が61件、ネグレクトが78件、身体的虐待が56件で合計198となっています。

なお、これまで「擁護（その他）」や「性格行動相談」などに含めていた虐待の軽微なものを、「虐待」の分類に主訴変更したため、令和2年度は件数が急増しています。

児童虐待に関する新規相談件数

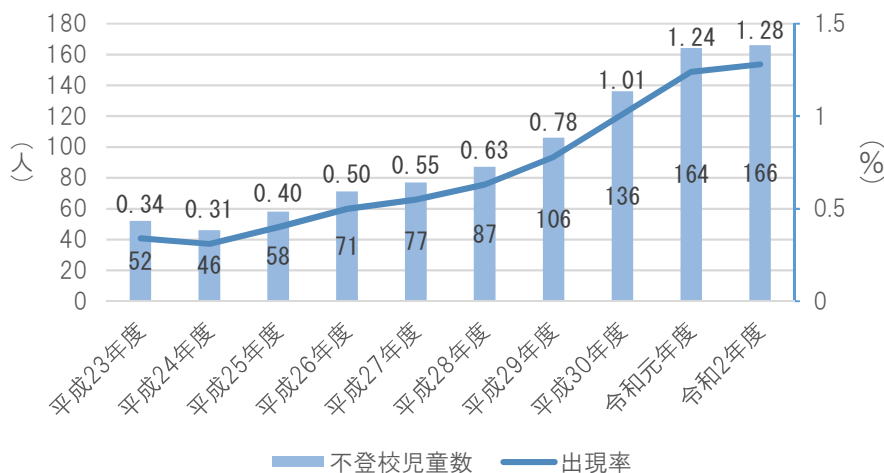


出典：市データ

⑧ 富士市の不登校児童生徒数、不登校出現率の推移

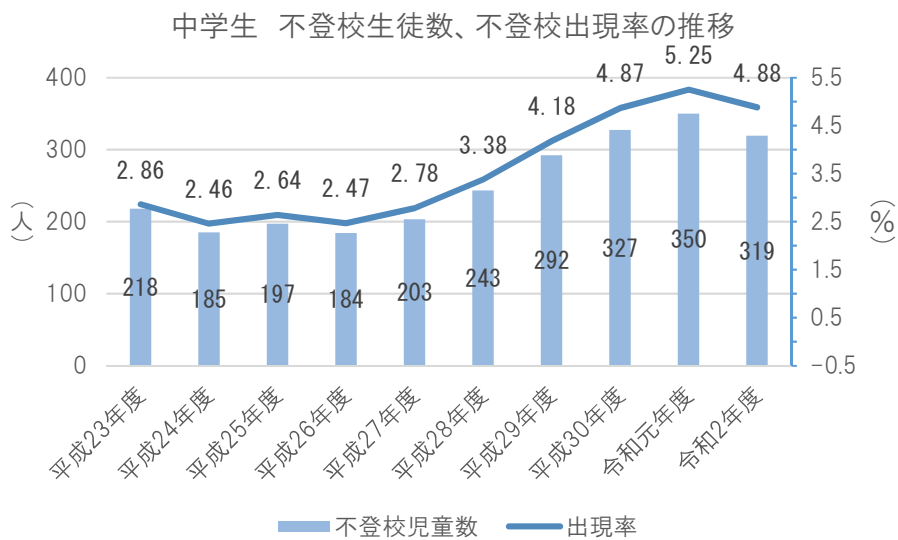
富士市の小学生不登校児童数を見ると、平成23年度から増加傾向にあり、令和2年度では166人、不登校出現率は1.28%となっています。

小学生 不登校児童数、不登校出現率の推移



出典：市データ

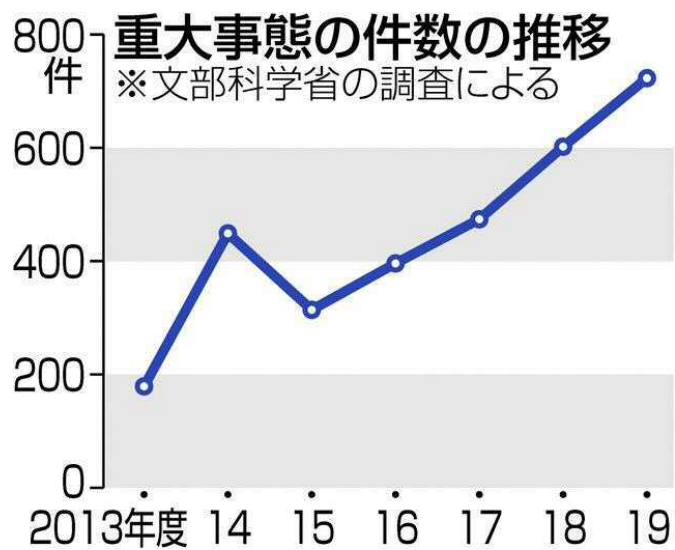
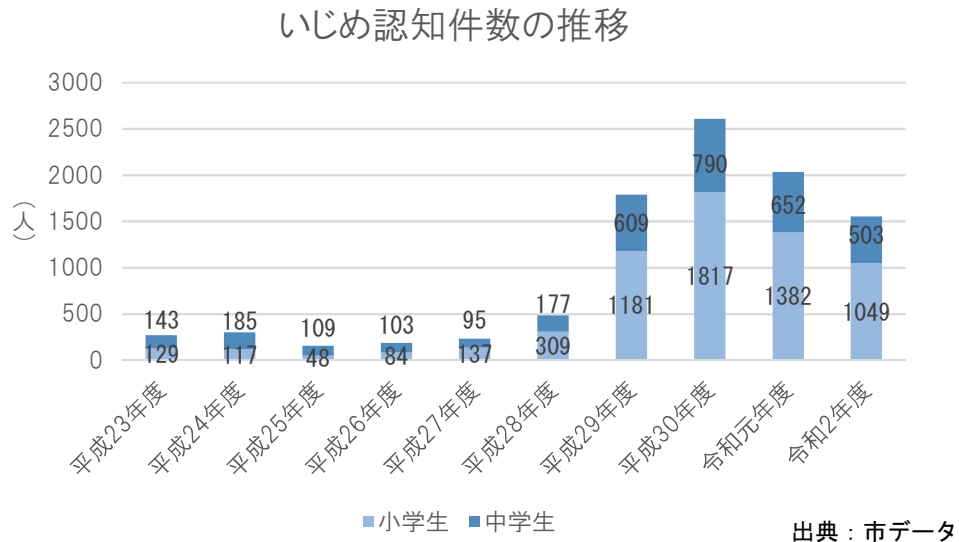
また、中学生不登校児童数をみると、平成23年度から増加傾向にあり、令和2年度では319人、不登校出現率は4.88%となっています。



出典：市データ

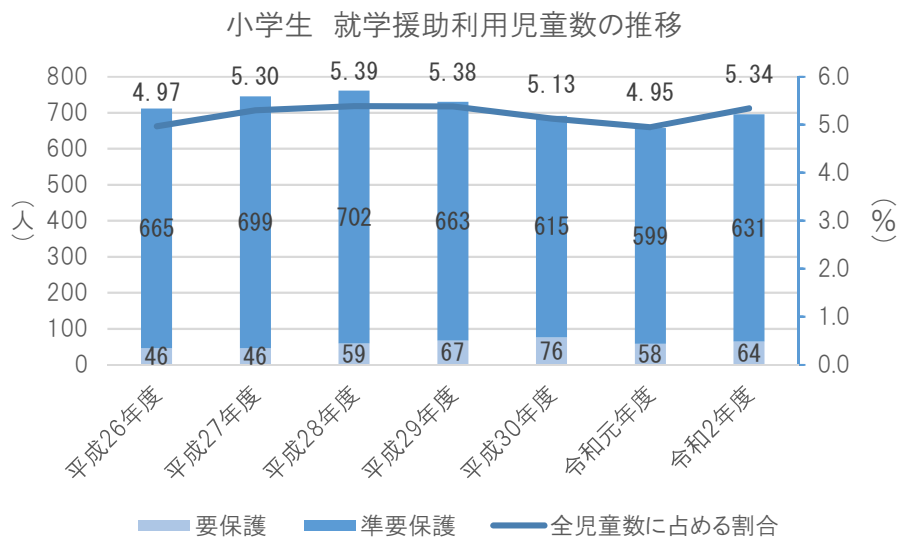
⑨ 富士市のいじめ認知件数の推移

富士市のいじめ認知件数をみると、平成 23 年度から平成 30 年度まで大幅な増加傾向にあり、令和 2 年度では小学生が 1049 人、中学生が 503 人となっています。



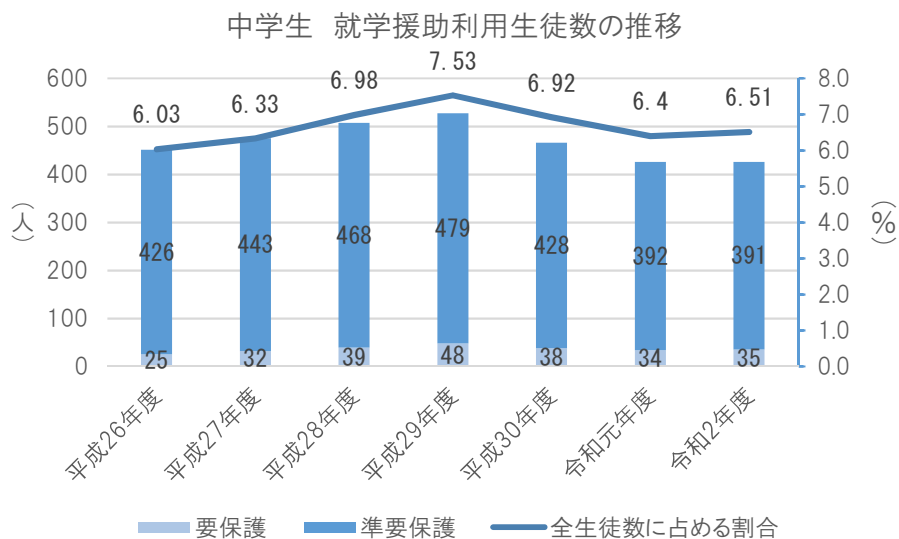
⑩ 富士市の就学援助利用児童生徒数の推移

富士市の小学生就学援助利用児童数をみると、令和2年度では要保護が64人、準要保護が631人、全児童数に占める割合は5.34%となっています。



出典：市データ

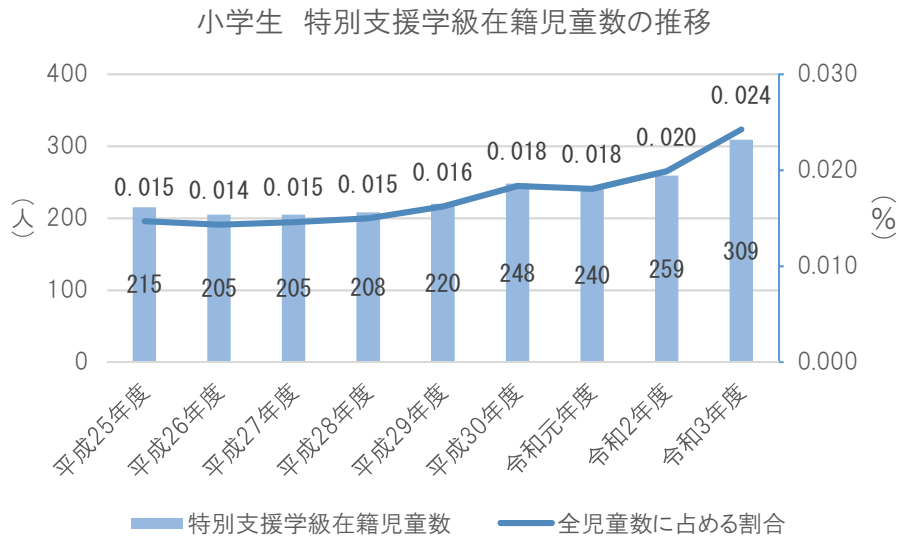
また、中学生就学援助利用生徒数をみると、令和2年度では要保護が35人、準要保護が391人、全生徒数に占める割合は6.51%となっています。



出典：市データ

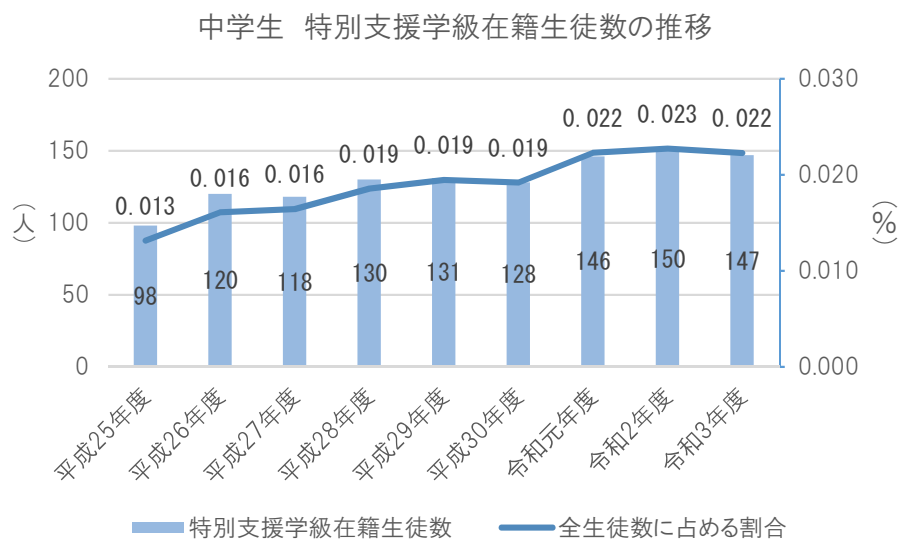
⑪ 富士市の特別支援学級在籍児童生徒数の推移

富士市の小学生特別支援学級在籍児童数をみると、令和3年度では309人、全児童数に占める割合は0.024%となっています。



出典：市データ

また、中学生特別支援学級在籍生徒数をみると、令和3年度では147人、全生徒数に占める割合は0.022%となっています。



出典：市データ

富士市における子どもを取り巻く課題

● 家族形態の変化による地域での世帯の孤立化

富士市の総人口及び18歳未満の人口は年々減少していますが、世帯数は増加傾向にあり、核家族化が進行しています。また、ひとり親世帯数の近年の動向もおおむね増加傾向にあります。こうしたことから、家族の単位は小さくなり、その形態は様々であることが考えられ、地域で孤立してしまったり、相談先がない世帯が今後も増えていく可能性がうかがえます。

● 支援が必要な子どもは依然減らない

児童養護施設に入所している子どもや、里親のもとにいる子どもなどの社会的養護対象児童数は、近年大きな増減はなく、また、生活保護を受給している18歳未満の児童数はわずかに増加しています。少子化が進行する中、依然ある一定数いる、支援が必要な子どもへの継続した切れ目ない支えが求められます。

● 学校を現場とする課題

富士市のいじめ認知件数は平成30年度をピークに減少傾向にありますが、令和2年度では1,500を超える件数が報告されています。不登校児童生徒数についても、類似した動向となっています。いじめは、不登校の要因となり得ることや、認知できていないものの存在も考えられることから、今後もより一層、子どもへ目を向けた学校や家庭におけるケアが必要です。

懇話会の主な意見

- ✓ 特別支援学級に通う子どもが多くなったのは、多様化する子どもの現れを見られるようになり、個別の子ども特性に目を向ける見方が増えてきているのではないか
- ✓ 特別支援学級に通う子どもが増えているという事実に基づき、子どもたちには、より権利養護や権利救済をしてあげなければならないという捉え方で良いのではないか
- ✓ いじめの件数はあてにならない数字だと思う。
- ✓ SNSでのいじめが増えている可能性もある。表に現れない数字があることを認識していかなければならない
- ✓ 実態として、富士市では、これだけ多くの不登校の子どもがいることを認識しなければならない

- ✓ 隠れ虐待や隠れ不登校は多くあると思う。条例を効果あるものにするには、そのことを認識する必要がある
- ✓ 虐待のうち性的虐待は、一番表面化しづらい
- ✓ 虐待された子どもは、大人に訴えられない年代であることを考慮すると、虐待は、潜在化している問題がある
- ✓ 不登校の子どもたちも、虐待を受けていた子どもたちも、条例により立ち直れるように繋げる必要がある
- ✓ 子どもは、能力や国籍、親の行動などにより、行政サービスを受けられるかどうか左右されている
- ✓ 条例ができた後、子どもの施策をどれだけ横断的にできるかが重要

(2) 富士市の子どもへの傾向（アンケート・意見聴取結果）

<アンケート調査の概要>

調査期間：令和元年10月～12月

調査方法：学校へ配付・回収

調査対象

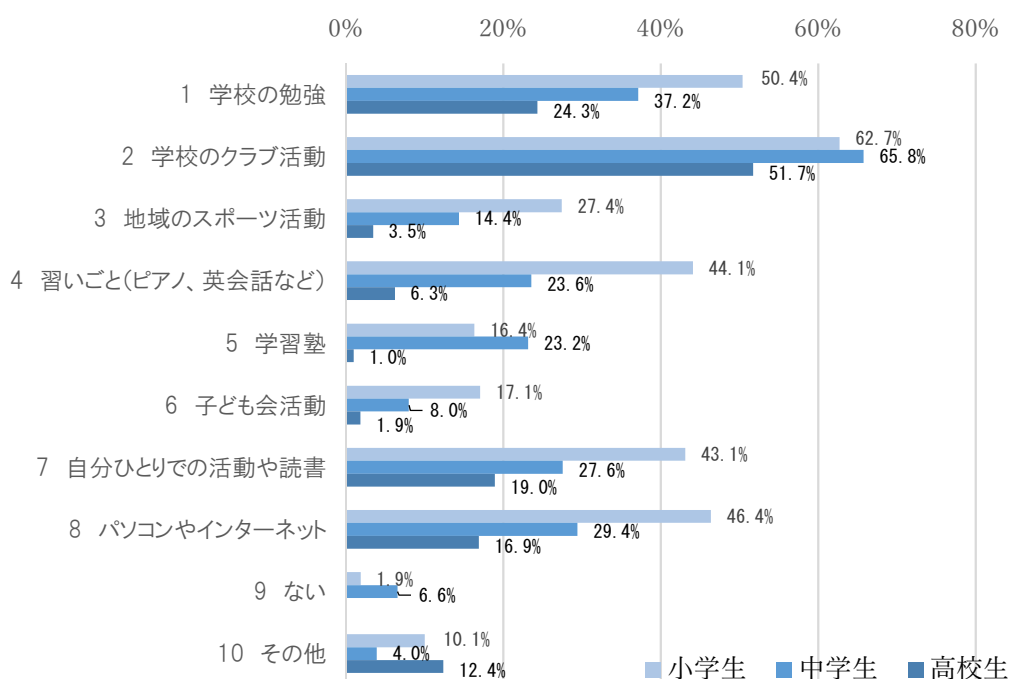
		配付数	回収数	回収率
小学生	5・6年生	1,486	1,363	91.7%
中学生	1～3年生	1,057	1,025	97.0%
高校生	1～3年生	708	686	96.9%
合計		3,251	3,074	94.6%

① 子どもの居場所

<アンケート結果より>

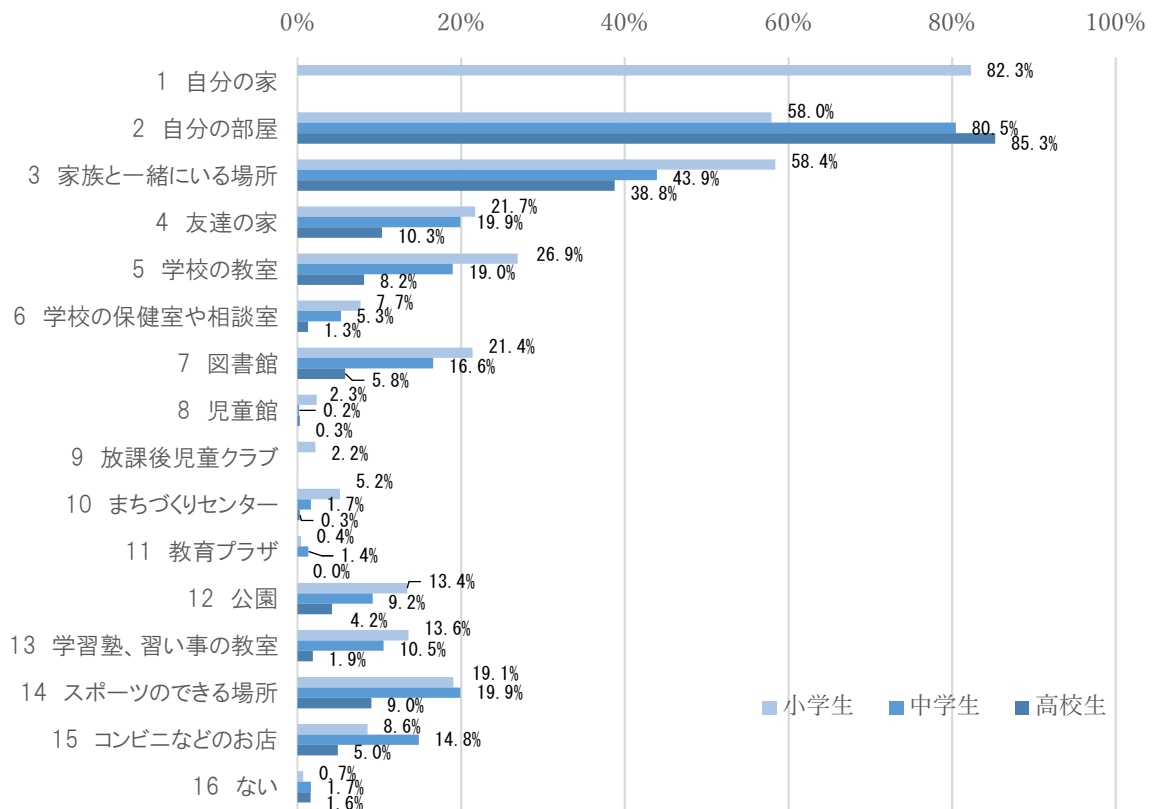
【今、あなたが打ち込んでいること、やりがいを感じていることは何ですか？】

- 小学生、中学生、高校生ともに共通して、「学校のクラブ活動」、「学校の勉強」の順で最も高くなっています。
- それに次いで、「パソコンやインターネット」、「習い事」、「自分ひとりでの活動や読書」が全体的に高い傾向があります。



【あなたにとって、ほっとでき、安心していられるところはどこですか？】

- 全体的に「自分の家」、「自分の部屋」が高く、特に中学生・高校生では「自分の部屋」が80%を超えています。
- 「家族と一緒にいる場所」、「友達の家」、「学校の教室」などは、年齢が上がるにつれて低くなる傾向があります。



子どもからの見聴取で多かった意見

- ✓ 自分の家、自分の部屋
- ✓ まわりのことが気にならない所・気をつかわない所
- ✓ (大切な) 友だちと一緒にいる所
- ✓ 何も音がしない所・うるさくない所・静かな場所
- ✓ 一人でいられる所
- ✓ 自分らしさを出せる所・素でいられる所
- ✓ 笑っていられる所・笑顔でいられる所
- ✓ 安心できる所・落ち着いて過ごすことができる所
- ✓ 楽しい所
- ✓ 学校 (教室、音楽室など)
- ✓ 自分のことを責め立てる人がいない所

懇話会の主な意見

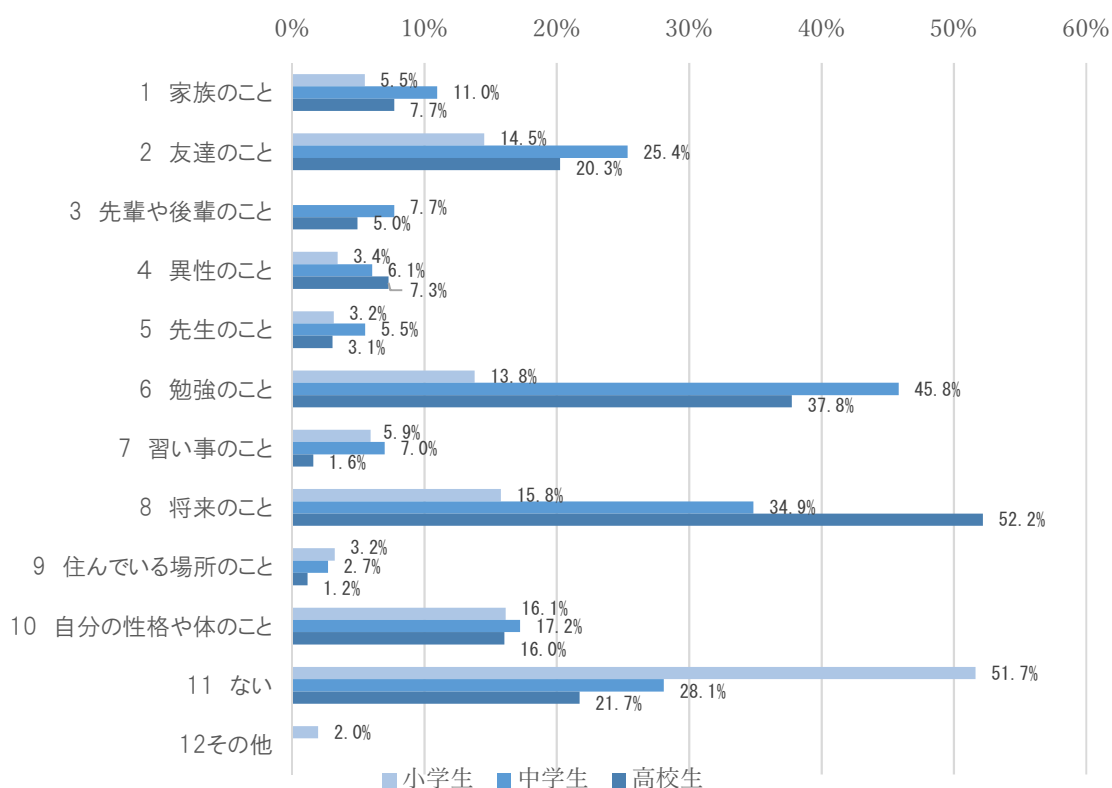
- ✓ 学校以外の居場所を必要としている子どもたちが増えているのではないか。
- ✓ 学校以外の場所も、子どもの居場所としてサポートしていける富士市にしていきたい
- ✓ 不登校の子どもたちは別の居場所を必要としている。学びの保障、居場所の保障をする必要が出てきているということだと思う

② 子どもの悩みと相談

<アンケート結果より>

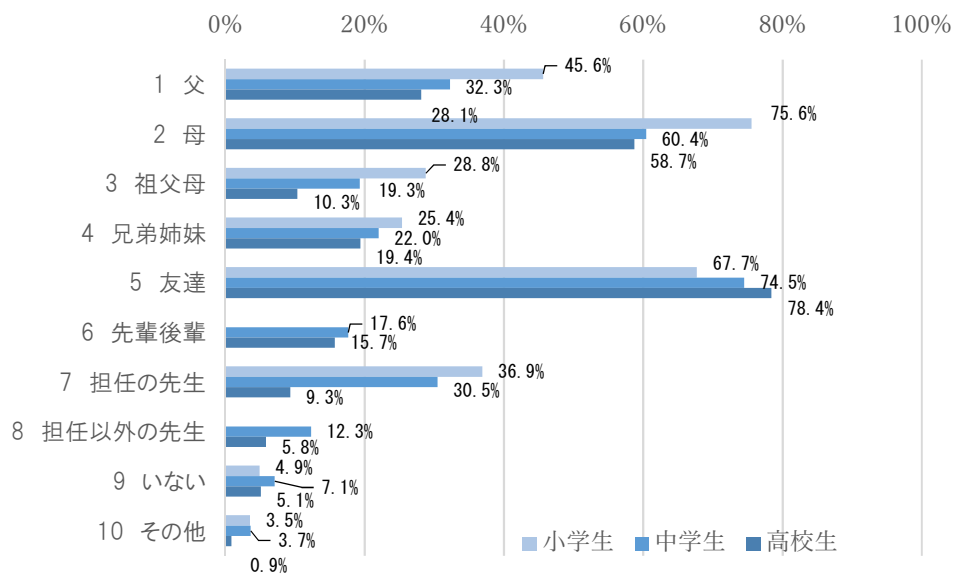
【あなたが、困ったり、悩んだりしていることはどんなことですか？】

- 小学生では、「ない」が最も多く 50%を超えており、次いで「自分の性格や体のこと」、「将来のこと」、「友達のこと」の順で高くなっています。
- 中学生では、「勉強のこと」が最も多く、次いで「将来のこと」、「ない」、「友達のこと」の順で高くなっています。
- 高校生では、「将来のこと」が最も多く、「勉強のこと」、「ない」、「友達のこと」の順で高くなっています。



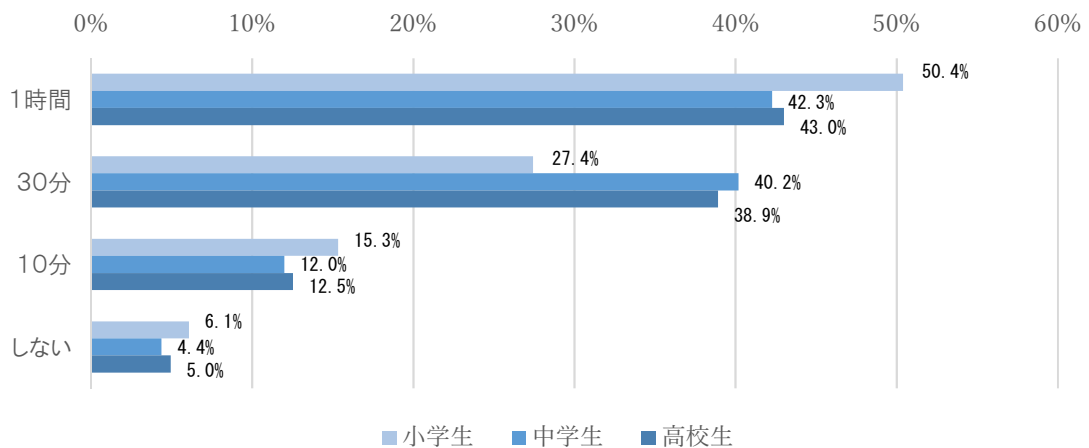
【あなたが、困ったり、悩んだりしたとき、相談できる人は誰ですか？】

- 小学生では、「母」が最も多く、次いで「友達」、「父」、「担任の先生」の順で高くなっています。
- 中学生では、「友達」が最も多く、次いで「母」、「父」、「担任の先生」の順で高くなっています。
- 高校生では、「友達」が最も多く、次いで「母」、「父」、「兄弟姉妹」の順で高くなっています。



【あなたは、1日（平日で学校のある時）に、家族とどの位話しますか？】

- 小学生、中学生、高校生ともに「1時間」が最も多くなっています。
- 中学生、高校生では、「30分」も多くなっています。



子どもからの見聴取で多かった意見

- ✓ 家族に話す、相談する
- ✓ 先生に話す、相談する
- ✓ 自分で考える・調べる・解決する
- ✓ 他のことする・考える（本を読む・寝る・食べる・ゲームをする・友達と遊ぶ・曲を聴く・運動など）
- ✓ 信頼している人に話す・（誰かに）相談する
- ✓ 我慢する・抱え込む

懇話会の主な意見

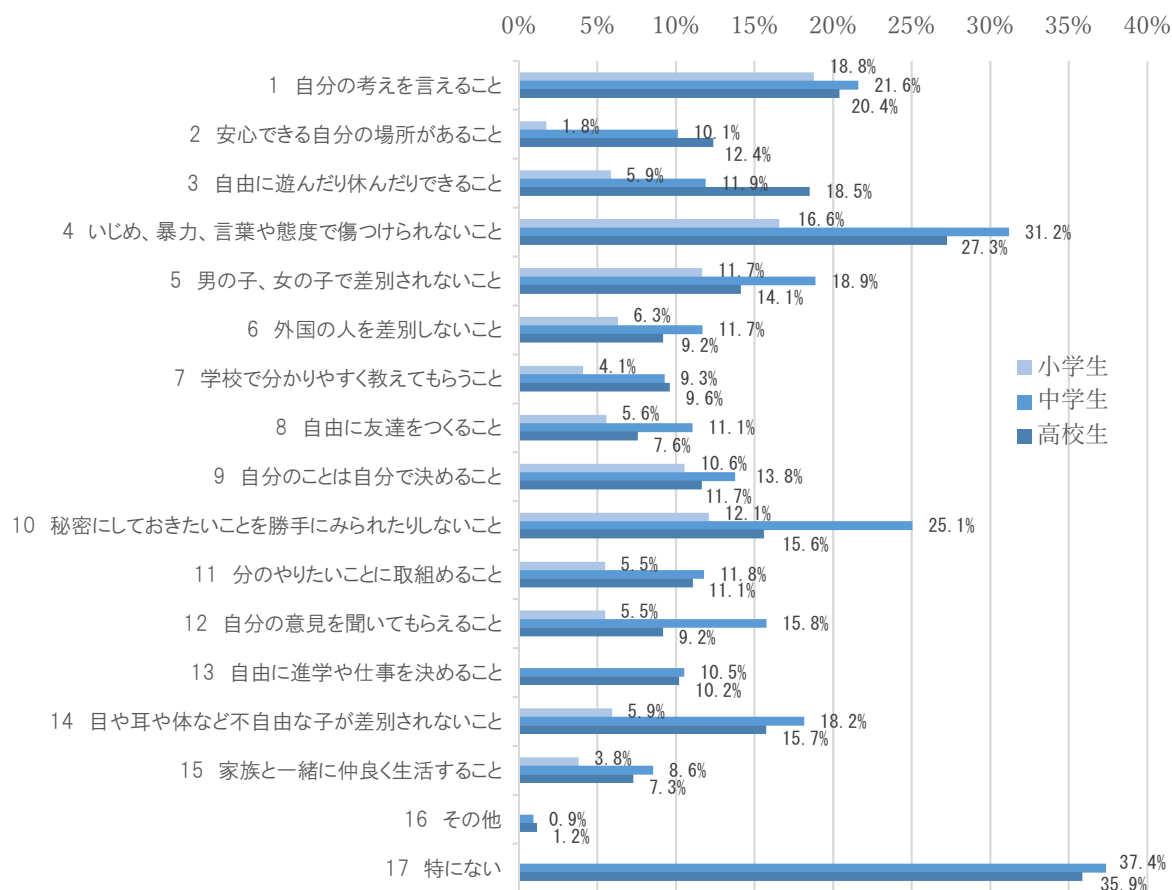
- ✓ 統計に表れない相談できない子どもたちが相談できるような場所を作っていくことも、非常に大きな意味があるのではないか
- ✓ 地区の民生委員では外国人の対応は難しい。民生委員は近い存在である反面、利用しにくい時もある
- ✓ 子どもの権利の救済機関はフットワークを軽くしておくことが大切

③ 子どもの意見表明

<アンケート結果より>

【あなたが、毎日の生活の中で「守られていない」と思うことは何だと思いますか？】

- 小学生では、「自分の考えが言えること」が最も高く、次いで「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」、「秘密のしておきたいことを勝手にみられたりしないこと」の順で高くなっています。
- 中学生では、「特にない」が最も高く、次いで「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」、「秘密のしておきたいことを勝手にみられたりしないこと」、「自分の考えが言えること」の順で高くなっています。
- 高校生では、「特にない」が最も高く、次いで「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」、「自分の考えが言えること」、「自由に遊んだり休んだりできること」の順で高くなっています。



子どもからの見聴取で多かった意見

- ✓ 人それぞれの意見をもっと聞き入れてほしい
- ✓ 自分のことは自分で決めたい
- ✓ 自分の意見が素直に言える（言いやすくなる）ようになってほしい
- ✓ 親の言うことだけでなく、子どもの言うこともきいてほしい
- ✓ 自分の意見を自由に発言できるようにしたい
- ✓ 自分の夢や考え・意見はだれにも否定されない（尊重される）

懇話会の主な意見

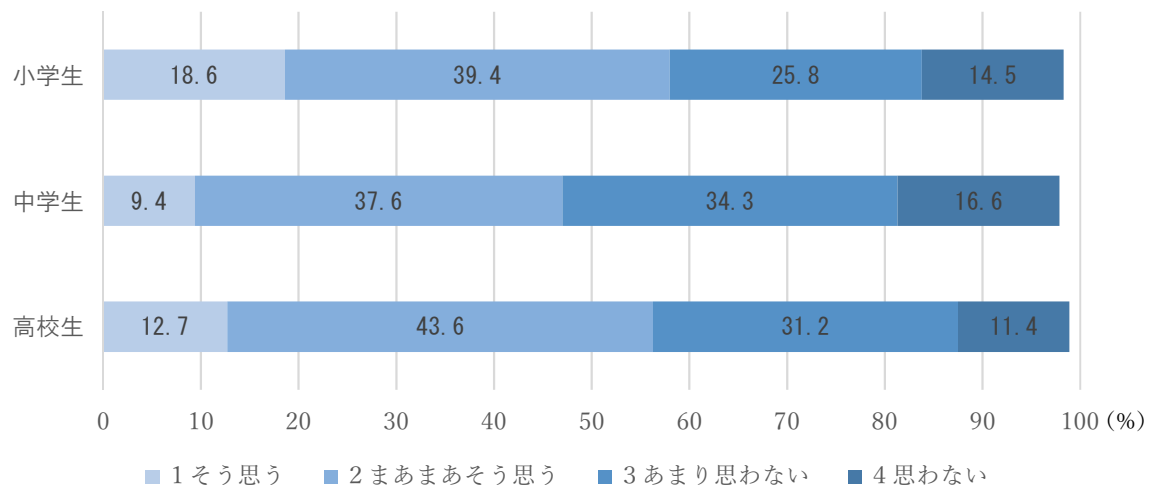
- ✓ 意見表明と繋がっていると思うが、自分が言った意見が認めてもらえることが、自己肯定感に繋がると思う
- ✓ 「自分のことをもっと信用してもらいたい」等の意見があったが、自分の意見をちゃんと認めてくれる大人がいると、自己肯定感が高くなる。周りの大人や友達が、どれだけ認めてあげられるかが大切
- ✓ 色々な要素があると思うが、支える体制ができれば、自己肯定感が高くなってくると思う
- ✓ 条例を作ることで、子どもが主体であるという視点を大事にしてやっていかないとならない
- ✓ 大人が良かれと思っていたルールに乗せるのではなくて、子どもが考えて自分でルールを作っていくように変えていかなければならない
- ✓ 意見を言える環境を覚悟を決めて大人が作っていかなければならないと思う

④ 自己肯定感

<アンケート結果より>

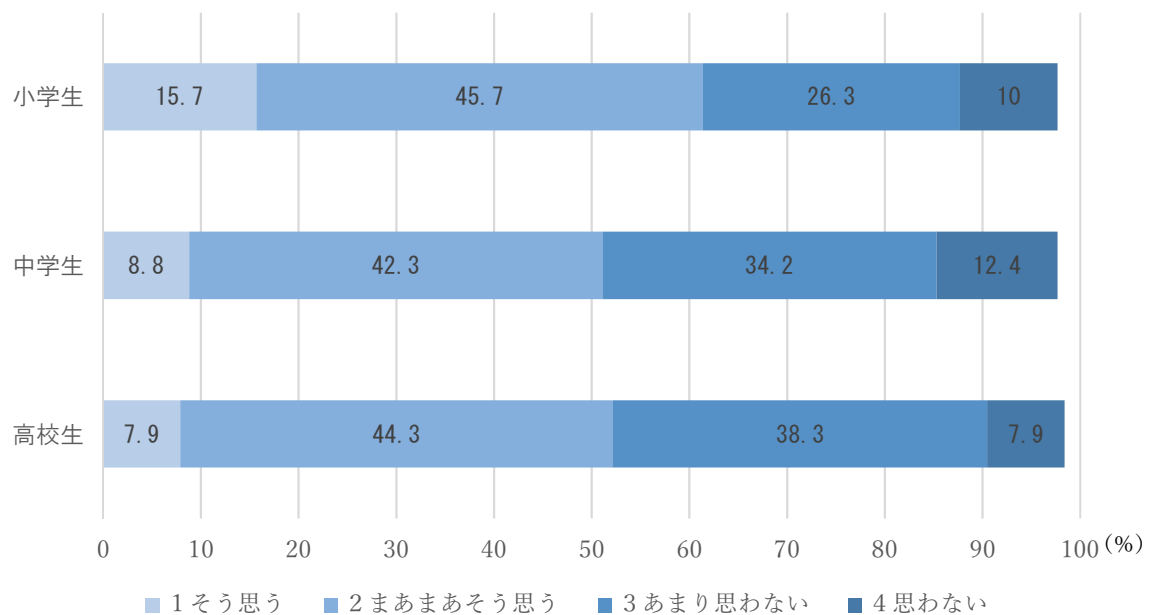
【あなたは、自分のことが好きですか？】

- 自分のことが好きだと思っている割合は、小学生では 58%、中学生では 47%、高校生では 56.3%です。



【あなたは、自分は人から必要とされていると思いますか？】

- 自分が人から必要とされていると思っている割合は、小学生では 61.4%、中学生では 51.1%、高校生では 52.2%です。



子どもからの見聴取で多かった意見

- ✓ 失敗しても、次を応援してほしい
- ✓ お互いに尊重し合うことが大切
- ✓ すごく頑張ったのに、認めてくれないのは嫌
- ✓ 子どもをもっと信用してもらいたい
- ✓ 自分の個性を大事にしてほしい
- ✓ 親の理想を子どもに押し付けないでほしい
- ✓ 大人だから子どもだからではなく、一人の人間として見てほしい

懇話会の主な意見

- ✓ 子どもの自己肯定感を育むことはすごく大事
- ✓ 富士市の子どもは自己肯定感が低い
- ✓ 自分が役に立っているかという意味での自己有用感についても低い
- ✓ 自己肯定感が高いことは、自信にも繋がっている。自信を持たせるためにどうしたらよいのかは、様々な場面で考えていかなければならない
- ✓ 人から頼られると自信が湧き自己肯定感に繋がるものである
- ✓ それぞれの子どもが活躍できる場所を作れたら良いと思う。活躍することで「必要とされている感」が強くなり、自己肯定感が高くなるのではないか
- ✓ 子どもたちの統計から、自分たちも考え直せるとよい